

単元名 (書写)行書と仮名を調和させて書いてみよう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 行書と仮名を調和させて書くことができる。
 (3) 学習したことを、日常生活の様々な書式に生かそうとする。

標準的な展開例

11210224_001

【教材名】「喜びの声」「いろは歌」(P. 64～P. 77)

【準備等】DVD-ROM, 毛筆のための練習用紙, 半紙二分の一サイズの用紙, 色紙, 短冊, 学習プリント(硬筆)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 点画の変化と連続を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで学習してきた行書について確認する。 ○「漢字の行書と仮名を調和させて書くこと」について知る。 ○「喜びの声」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。 <p>★点画の連続を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(p. 64)の「喜びの声」を指でなぞり、筆脈の表れている部分や漢字と仮名の大きさについて知り、自己課題を設定する。 ○「喜びの声」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批評する。 ○毛筆でまとめ書きをする。 ○硬筆で「喜びの声」を書き、本時の振り返りを行う。 <p>2 配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時に、点画の変化と連続を学習して書いたことを想起させる。 ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★点画の連続と配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の作品「喜びの声」を示範や教科書の文字(p. 64)と比べて、自己の課題を見直し設定する。 ○「喜びの声」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批評する。 ○毛筆でまとめ書きをする。 ○教科書(p. 65)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。 <p>3 行書に調和する仮名の筆使いを理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返り、行書に調和する仮名の書き方を確かめる。 ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★行書に調和する仮名の筆使いを確かめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楷書との違いを意識しながら、基準を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の特徴(p. 62～p. 63)や、1年時に行書の導入で指導した内容(p. 42～p. 43)を参照させる。 ・日本語は漢字と仮名を用いて表記する「漢字仮名交じり文」で、最も日常的に多用する行書との組み合わせについて学習する意義について補足する。 ・教科書(p. 65)に、点画の連続を意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高めさせる。 ・生徒の実態に応じて、硬筆で連続してつなげて書かせたり、「生かそう」(p. 65)の例を硬筆でなぞらせたりする活動を通して、筆脈の連続や終筆の抜きを体感させる。 ・水書板等を用い示範して、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①筆脈と点画の連続 ②行書に調和する仮名の筆使い ・机間指導をしながら、個人の課題解決を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ①筆脈や連続を意識しているか。 ②漢字と仮名の大きさはどうか。 ③紙面に対する大きさはどうか。 ④行の中心や隣り合う文字の位置はどうか。 <p>【評】点画の変化と連続を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習基準を確認させ、次時の課題へ関心と意欲をもたせる。 ・前時に書いた清書を数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。 ・筆使いに追加する基準は、以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ③筆脈や点画の連続を意識して書く。 ④始筆、終筆の特徴に気を付けて書く。 ⑤仮名は、漢字より小さめに書く。 ・「考えよう」(p. 75)を使って、筆脈や配列について課題を見つけさせたい。 ・隣同士で相互評価させ、課題を見直ししながら練習に取り組める機会を設けられるとよい。 <p>【評】点画の連続と配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年生で学習した「楷書に調和する仮名」(p. 26～p. 27)と行書を比較させる。教科書(p. 67)を参照し、①点や線を連続して書く、②終筆を軽く書くことを確認させる。 ・半紙を横置きにして縦8列、横6行に折らせ、教科書(p. 78～p. 79)を手本にしているいろは歌を練習させる。 ・「ゐ」と「ゑ」について、歴史的仮名遣いのときに使用することを確認させる。 ・楷書との違い <ul style="list-style-type: none"> ①行書に調和する仮名の筆使い(始筆、終筆)

○教材と比較し、自分の課題を見つける。

○自分の課題を意識しながら、平仮名「いろは歌」を硬筆で練習する。

○まとめ書きをし、本時の学習の振り返りを行う。

4 文字の大きさや配列を理解して、半紙二分の一サイズに書く。

○これまで学習してきた「行書に調和する仮名」について確かめる。

○本時の学習課題をつかむ。

★配列を意識して、好きな言葉を「半紙二分の一」に書こう。

○半紙二分の一用紙に試し書きをする。

○紙面に対する文字の大きさ、漢字と平仮名の関係を考え基準を確かめる。

○基準と比較して批正し、自己課題を設定する。

○筆脈、行間、余白を意識して練習する。

○まとめ書きをする。

5 文字の大きさや配列を理解して色紙や短冊に書く。

○これまで学習してきた「行書に調和する仮名」について確かめる。

○本時の学習課題をつかむ。

★好きな言葉を「色紙」や「短冊」に書こう。

○好きな言葉や詩、短歌、俳句を練習用紙や短冊と同じ大きさにした半紙に、試し書きをする。

○紙面に対する文字の大きさ、漢字と平仮名の関係を考えて、基準を確かめる。

の変化・筆脈・線の連続、省略・リズムカルな曲線)

②字形(線の方向の違い・文字の中の空間性)

・基本的な筆使いとして、右回りと折り返し、左回りと折り返し、結びについて意識させ、課題設定に生かしたい。

・DVD-ROMを活用し、意欲を高める。

【評】行書に調和する仮名の筆使いを理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教科書(p. 67)に記入させる。

・発展(p. 67)にも触れ、「連綿」について知らせる。

・筆脈や文字の大きさ、配列に気を付けてきたことを確認させる。

・事前に、教科書や資料集を参考に、好きな言葉や詩、短歌、俳句を用意しておく。教科書の参考となるページは、以下のとおりである。(p. 1, p. 56～p. 57, p. 68～p. 72, p. 74, p. 76 p. 92～p. 93)

・さらに、色紙と短冊については、以下のページに掲載がある。(p. 34～p. 35, p. 68～p. 71)

・あらかじめ文字数など、生徒の実態に合わせた条件を提示する。

・漢字の行書については、教科書(p. 113～p. 125)を参考にさせる。

・考えよう(p. 68)から、筆脈、行間、余白について、具体的に確かめたいのは、以下のとおりである。

①筆脈の連続

②仮名は漢字より小さめ

③文字の大きさ

④筆順、線の連続、省略

・書くときのポイントとして、「詩や詩歌、俳句を書くときのポイント」(p. 68)の内容についても触れる。

・相互批正を取り入れるとよい。

・色紙や短冊に書くなどの、様々な表現方法に気付かせ、次時につなげさせる。

【評】文字の大きさまたは、配列を理解し、好きな言葉を半紙二分の一用紙に書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・前時に作成した半紙二分の一用紙の生徒作品を使って確かめさせる。

・事前に、教科書や資料集を参考に、好きな言葉や詩、短歌、俳句を用意しておく。教科書の参考となるページは、以下のとおりである。(p. 1, p. 56～p. 57, p. 68～p. 72, p. 74, p. 76 p. 92～p. 93)

・さらに、色紙と短冊については、以下のページに掲載がある。(p. 34～p. 35, p. 68～p. 71)

・あらかじめ、文字数など、生徒の実態に合わせた条件を提示する。

・短冊に短歌を書く際の伝統的な書式は、「短歌を短冊に書く書式」(p. 69)を参照する。

・漢字の行書については、教科書(p. 113～p. 125)を参考にさせる。

・「考えよう」(p. 68)から、筆脈、行間、余白について、具体的に確かめたいのは、以下のとおりである。

①筆脈の連続

②仮名は漢字より小さめ

③文字の大きさ

④筆順、線の連続、省略

・書くときのポイントとして、「詩や短歌、俳句を書くときのポイント」(p. 68)の内容につ

<ul style="list-style-type: none"> ○基準と比較して批正し、自己課題を設定する。 ○筆脈、行間、余白を意識して練習する。 ○「色紙」や「短冊」にまとめ書きをする。 <p>○学習のまとめとして、振り返りを行う。</p> <p>6 行書と行書に調和する仮名の書き方を理解して、速く書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「走れメロス」の一節を硬筆で1分間試し書きをする。 ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★行書の学習を生かして、書く速さを意識しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行書の特徴を確認するため、硬筆で楷書と行書の違いを確認する。 <p>○行書と仮名の調和を確かめながら練習する。</p> <p>○「走れメロス」の一節を、硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○「試し書き」(p.72)と「まとめ書き」(p.73)を比べて気付いたことを書き、振り返りを行う。</p> <p>7 行書と仮名の調和や配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返る。 <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★行書と仮名の調和や配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「枕草子」冒頭部分を音読し、硬筆で学習プリントに試し書きをする。 ○基準を基に書いた「枕草子」冒頭部分を批正し、自己課題を設定する。 <p>○「平家物語」冒頭部分を、硬筆で学習プリントに書く。</p> <p>○基準を基に、書いた「平家物語」冒頭部分を批正し、自己課題を見直す。</p> <p>○「平家物語」敦盛の段の一節を、硬筆で書く。</p> <p>○学習のまとめとして、振り返りを行う。</p>	<p>いても触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互批正を取り入れるとよい。 <p>【評】文字の大きさや、配列を理解して好きな言葉を短冊に書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(p.69)に記入させる。 ・できれば掲示や鑑賞会を行い、学習の成果を確かめる相互評価の機会を設けたい。 <p>・教科書(p.72)に行書で書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試書を基に、これまで学習してきた行書、行書に調和した仮名について確認し、速く書くことを課題に追加する。 <p>・「考えよう」①②(p.72)を参照させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行書の特徴、行書に調和した仮名について確認する。 ①筆脈の連続、点画の変化と連続、始筆と終筆の特徴、曲線 ②仮名は漢字より小さめに ・「生かそう」(p.73)を練習用紙に書かせたりなぞらせたりする。 <p>【評】行書と行書に調和する仮名の筆使いを理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(p.73)に書かせる。 ・授業のノート、メモ、教室の掲示物や黒板記入など、日々の学校生活に目を向けさせ、行書のよさを確認させる。 <p>・前時までの学習内容である「速く書く、連続と省略、文字の大きさ」について確認し、本時は発展させて学ぶことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語学習と並行した計画を立案して、効果的な古文学習と文字指導の両立を図りたい。 ・これまでの学習から確認したい基準は、以下のとおりである。 ①点画の連続、省略、変化について意識して書く。 ②仮名は漢字より小さめに書く。 ③行の中心をそろえて書く。 ・設定した自己課題を意識させながら、書かせる。 ・できれば、暗記した状態で書かせたい。 ・学習プリントは、まず目入りの用紙、罫線や行の中心に補助線がある用紙、白紙など、予想される生徒の課題に合わせて用意したい。 ・改めて基準を意識させ、点画の変化や省略が難しい漢字は重点的に練習できる欄を設けるなど、学習プリントを工夫する。 ・生かそう(p.77)に書く。 <p>【評】行書と仮名の調和や配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(p.77)に記入させる。
---	---

【 備 考 】

行書の特徴である点画の連続や省略、配列を理解して書くことができるようにする。また、行書に調和する仮名の字形、筆使い、文字の大きさや配列を理解して書くことができるように展開を工夫する。好きな言葉や詩、短歌、俳句を色紙や短冊に書く活動に取り組ませることによって伝統文化に触れる機会にするなど、計画的に目的意識がもてる活用の場面を設けたい。毛筆ばかりではなく、硬筆にも取り組ませたい。

そして、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れ、日常の書写活動にも生かせるようにしたい。

日本建築と「書」 教科書 (p.84～p.85) (適時)

補助教材集 行書と仮名の調和「旅立ちの朝」「ルナールの言葉」 教科書(p.143)